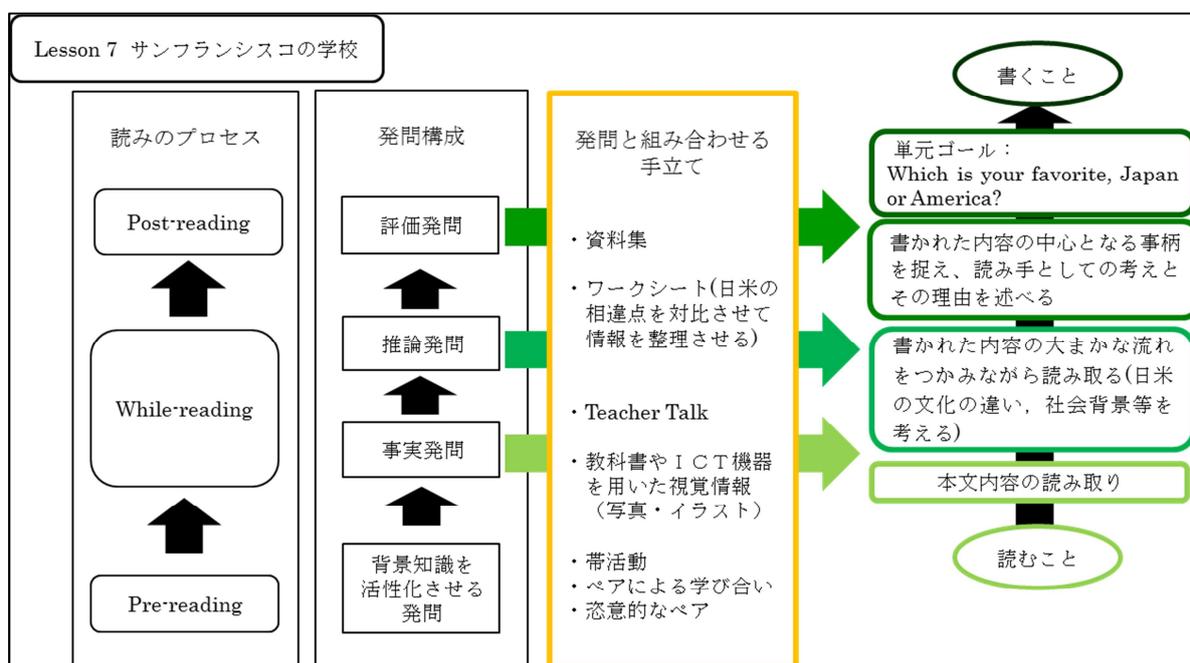


ウ [実践事例3] 第1学年 Unit 7 サンフランシスコの学校

(ア) 読みのプロセスに応じた発問構成

Pre-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・ Teacher Talk や写真などで興味をもたせ、本文の内容をつかみやすくさせる。 ・ 日本とアメリカの文化の違い（学校以外の場面、簡単なもの）を提示し、異文化理解に興味をもたせる。 ・ 生徒との interaction を通して、日本とアメリカの文化の違いに気付かせる。
While-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文に明示されている情報を引き出す質問をする【事実発問】。 ・ 本文に明示されている情報を表に整理させる【事実発問】。 ・ 日本の学校生活との違いについて考えさせる【推論発問】。
Post-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本単元で学んだ日本とアメリカの文化の違いを踏まえ“Which is your favorite, Japan or America?”という質問に対する自分の主張をさせる【評価発問】。

(イ) 単元構想図



(ウ) 発問ごとの生徒の読み取りと生徒の思考力の高まりについての見取り

各段階における読み取りができたかどうかは、それぞれ以下の方法で見取ります。また、思考力が高まったかどうかについては、生徒の発話やワークシートの記述及び産出した英文を基に、生徒が読解ストラテジーを活用したかどうかで判断します。

- 事実発問を通して、本文に直接示された情報を正確に取り出すことができているかどうかを、アメリカの学校に関する情報をまとめたワークシートの記述と発話で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。
- 推論発問を通して、本文に直接示されていないことを推論できているかどうかを、日本の学校生活との違いをまとめたワークシートの記述と発話で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。
- 評価発問 (Which is your favorite, Japan or America?) に対して、体験を関連付けた上で自分の考えとその理由を述べるができているかどうかを、ワークシートの記述で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。

(エ) 発話とワークシートの記述に見られる生徒の思考力の高まりについて

a 事実発問による見取り

事実発問を通して、本文に直接示された情報を正確に取り出すことができているかどうかを、生徒の発話とワークシートの記述で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。思考の分類は、**研究の実際 I 図 2**の Waters の思考の分類と、**研究の実際 I 資料 1**の意見・考えを引き出す工夫を参照します。思考力の高まりは読解ストラテジー（表内 RS）（**研究の実際 I 資料 2**）の活用で判断します。○は各段階を総括した考察です。下線部は思考の分類及び RS を示しています。

教師の発問	生徒の反応(学習形態)	考察
▶ How many classes does Mei have?	S1:classes...は授業... 6回? (ペア) Ss:Six. (斉)	<ul style="list-style-type: none"> 思考の分類は②情報変換。RS は、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、翻訳する、検索読み、本文を言い換える</u>等を活用したと考えられます。本文中の英文は“How many classes do you have each day?”と、対話形式でナンシーがメイに質問する形式になっているため、言い換えができなければ解答できません。
▶ How long are the classes? ▶ How long? Long? そう、長い。どのくらい長い?	Ss:長い。(斉) Ss:Fifty minutes. (斉)	<ul style="list-style-type: none"> 思考の分類は②情報変換。RS は、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み</u>等を活用したと考えられます。
▶ How long do they have between classes?	Ss:Five minutes. (斉)	<ul style="list-style-type: none"> 思考の分類は②情報変換。RS は、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、本文を言い換える</u>等を活用したと考えられます。本文中の英文は“We only have five minutes between classes.”と、対話形式でメイがナンシーに回答する形式になっているため、言い換えができなければ解答できません。
▶ ボランティアの授業をメイはとっている?とっていない? ▶ 彼女はいったい何をしているんだろうか? ▶ 誰に?	Ss:とっている。(斉) Ss:病院で読み語り。本を読んでいる。(斉) Ss:子供たちに。(斉)	<ul style="list-style-type: none"> 思考の分類は②情報変換。RS は、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、本文を言い換える、書かれている内容に質問、疑問を抱く</u>等を活用したと考えられます。本文中の英文は“You take the volunteer class, right?” “Yes. I read books to children in hospitals.”と、ナンシーとメイの対話の言い換えができなければ解答できません。
▶ What foreign language? ▶ メイが勉強しているのは?	Ss:言語。(斉) Ss:外国語。(斉) Ss:スペイン語。(斉)	<ul style="list-style-type: none"> 思考の分類は②情報変換。RS は、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、本文を言い換える、書かれている内容に質問、疑問を抱く</u>等を活用したと考えられます。本文中の英文は“Mei, what foreign language do you study?” “I study Spanish.”と、ナンシーとメイの対話の言い換えができなければ解答できません。

思考の高まりを、各発問に対する生徒の記述と読解ストラテジーとの関連を基に考察します。

ワークシートの記述（抽出生徒）		考察																											
<p>(A群の生徒)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Topic</th> <th>America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small></th> <th>Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Part3 1日の授業数</td> <td>6時間 月3回 (45分・50分・60分・90分)</td> <td>(45分・50分・60分・90分)</td> </tr> <tr> <td>授業の時間</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> </tr> <tr> <td>休み時間</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>制服</td> <td>(やさしい・きびしい) (かみかたが4回)だから。</td> <td>(やさしい・きびしい) (髪を2週間)だから。</td> </tr> <tr> <td>★学校のきまり</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>★掃除</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語 spanish</td> <td>英語</td> </tr> </tbody> </table>		Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>	Part3 1日の授業数	6時間 月3回 (45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)	授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)	休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)	ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)	制服	(やさしい・きびしい) (かみかたが4回)だから。	(やさしい・きびしい) (髪を2週間)だから。	★学校のきまり	(ある・ない)	(ある・ない)	★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)	勉強する外国語	スペイン語 spanish	英語	<ul style="list-style-type: none"> A群の生徒は、事実発問への解答、日本の学校との対比及びそれらを関連付けた推論発問への解答全てに答えています。思考の分類は②情報変換、③解釈、④応用。RSは、読み直し、視覚情報の参照、内容・話題の知識を活用する、個人的体験と照合する、文化的知識を活用する、推測、憶測する等だと考えられます。
Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>																											
Part3 1日の授業数	6時間 月3回 (45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)																											
授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)																											
休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)																											
ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)																											
制服	(やさしい・きびしい) (かみかたが4回)だから。	(やさしい・きびしい) (髪を2週間)だから。																											
★学校のきまり	(ある・ない)	(ある・ない)																											
★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)																											
勉強する外国語	スペイン語 spanish	英語																											
<p>(B群の生徒)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Topic</th> <th>America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small></th> <th>Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Part3 1日の授業数</td> <td>(45分・50分・60分・90分)</td> <td>(45分・50分・60分・90分)</td> </tr> <tr> <td>授業の時間</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> </tr> <tr> <td>休み時間</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>制服</td> <td>(やさしい・きびしい) (服が自由)だから。</td> <td>(やさしい・きびしい) (きまりがたくさん)だから。</td> </tr> <tr> <td>★学校のきまり</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>★掃除</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語</td> <td>英語</td> </tr> </tbody> </table>		Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>	Part3 1日の授業数	(45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)	授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)	休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)	ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)	制服	(やさしい・きびしい) (服が自由)だから。	(やさしい・きびしい) (きまりがたくさん)だから。	★学校のきまり	(ある・ない)	(ある・ない)	★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)	勉強する外国語	スペイン語	英語	<ul style="list-style-type: none"> B群の生徒も、事実発問への解答、日本の学校との対比及びそれらを関連付けた推論発問への解答全てに答えています。思考の分類は②情報変換、③解釈、④応用。RSは、読み直し、視覚情報の参照、内容・話題の知識を活用する、個人的体験と照合する、文化的知識を活用する、推測、憶測する等だと考えられます。
Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>																											
Part3 1日の授業数	(45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)																											
授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)																											
休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)																											
ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)																											
制服	(やさしい・きびしい) (服が自由)だから。	(やさしい・きびしい) (きまりがたくさん)だから。																											
★学校のきまり	(ある・ない)	(ある・ない)																											
★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)																											
勉強する外国語	スペイン語	英語																											
<p>(C群の生徒)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Topic</th> <th>America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small></th> <th>Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Part3 1日の授業数</td> <td>(45分・50分・60分・90分)</td> <td>(45分・50分・60分・90分)</td> </tr> <tr> <td>授業の時間</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> </tr> <tr> <td>休み時間</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>制服</td> <td>(やさしい・きびしい)</td> <td>(やさしい・きびしい)</td> </tr> <tr> <td>★学校のきまり</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>★掃除</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>	Part3 1日の授業数	(45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)	授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)	休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)	ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)	制服	(やさしい・きびしい)	(やさしい・きびしい)	★学校のきまり	(ある・ない)	(ある・ない)	★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)	勉強する外国語	スペイン語		<ul style="list-style-type: none"> C群の生徒は、事実発問への解答はできています。また、事実発問に関連する日本の学校との対比も解答しています。思考の分類は②情報変換。RSは、読み直し、視覚情報の参照、文化的知識を活用する等だと考えられます。
Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>																											
Part3 1日の授業数	(45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)																											
授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)																											
休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)																											
ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)																											
制服	(やさしい・きびしい)	(やさしい・きびしい)																											
★学校のきまり	(ある・ない)	(ある・ない)																											
★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)																											
勉強する外国語	スペイン語																												
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">事実発問への解答</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">推論発問への解答</div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;">日本の学校との対比</div>		<ul style="list-style-type: none"> ○事実発問への解答状況から、A群、B群、C群の生徒全てが、研究の実際 I 図2による情報内思考のレベルである②情報交換を行っていることが分かります。推論発問への解答状況から、A群、B群の生徒は、情報を超えた思考のレベルである③解釈、④応用を行っていることが分かります。C群の生徒は、このレベルの認知処理は行っていないことが分かります。RSについても、C群の生徒は、推測、憶測するというストラテジーを活用していないことから、事実情報を関連付けて考えを述べることには困難さを感じていることが分かります。したがって、研究の実際 I 資料1による関連性を見付けさせたり、比較させたりする発問を行う必要があります。発問以外については、発話の状況から、ペアによる確認、一斉によるインタラクションが効果的であることが考えられます。また、Teacher Talkは、事実発問に関しては、本文に書かれている英文を音声と結び付けることができるので、理解を促すのに役立つと言えます。RSで言えば、内的音声化を引き出すことが考えられます。日本語を介さずに内容を理解する力を付けていくためにも、積極的にTeacher Talkを使用することが望まれます。 																											

b 推論発問による見取り

推論発問を通して、本文に直接示されていないことを推論できているかどうかを、生徒の発話とワークシートの記述で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。思考の分類は、**研究の実際 I 図 2**の Waters の思考の分類と、**研究の実際 I 資料 1**の意見・考えを引き出す工夫を参照します。思考力の高まりは読解ストラテジー（**研究の実際 I 資料 2**）の活用で判断します。○は各段階を総括した考察です。下線部は思考の分類及びRSを示しています。

教師の発問	生徒の反応（学習形態）	考察
<p>▶ Why does Mei study Spanish?（電子黒板に質問を提示）</p> <p>▶ 外国語を勉強する理由って？</p>	<p>S1: あっ、病院の子供たちへの本読み？（ペア）</p> <p>S2: スペイン…ボランティア…病院の人たち…あっ、hospital で書いてある。私は、病院の子供たちに本を読む。学校の決まりは、やさしい？本を読むから。（ペア）</p> <p>S3: I study Spanish…勉強する語はスペイン語じゃないの？（ペア）</p>	<p>・思考の分類は②情報変換、③解釈、④応用、⑤分析。RS は、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、概要把握読み、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、語彙、今読んでいる文脈等を活用した</u>と考えられます。</p>
<p>▶ サンフランシスコでスペイン語が学ばれている理由は？</p> <p>▶ 本文に書かれていることプラス配付資料のイラストから分かるといいね。</p> <p>▶ (アメリカの西海岸で話されている言語分布図を見ながら)この旗が表す国ってどこにあるんだろう？</p>	<p>S4: 友達がスペイン人で…住んでいるところがアメリカのサンフランシスコ。スペイン人の友達がいるから、一緒に話したい、ということじゃないの？だって、friend…がスペイン語を話すから。（グループ）</p> <p>S5: もとスペインが領土にしていた。（グループ）</p> <p>S6: 親がスペイン人だから。（グループ）</p> <p>S7: ボランティアさんが…（グループ）</p> <p>S8: スペインが支配している…（グループ）</p> <p>S4: サンフランシスコはスペイン語やろ？だいたいその青いところはスペインやろ？スペインのマークやん。（グループ）</p> <p>S9: 移民が作る社会</p> <p>S10: (社会科資料集を取り出し、アメリカ大陸とヨーロッパ大陸との位置関係を確認して) スペインからの移民？（グループ）</p>	<p>・思考の分類は②情報変換、③解釈、④応用、⑤分析。RS は、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、概要把握読み、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、語彙、今読んでいる文脈等を活用した</u>と考えられます。</p> <p>・思考の分類は⑤分析、⑥総合、創造、⑦評価。RS は、<u>戻り読み、読み直し、概要把握読み、内容・話題の知識、推測、憶測する、他のテキストの知識、文化的知識等を活用した</u>と考えられます。</p> <p>○発問と組み合わせる配付資料や電子黒板に提示された関連する視覚情報により、RS の要素が変化し、思考の分類が情報を超えた思考にシフトしたのが分かります。それに伴い、ペアやグループでの話合いが活発になっています。このレベルの認知処理を行うには、学習形態の工夫が効果を発揮するといえます。</p>

思考の高まりを、推論発問に対する生徒の答えと読解ストラテジーとの関連を基に考察します。また、何を根拠に推論しているのかをワークシートの記述から分析します。

ワークシートの記述（抽出生徒）	考察			
<p>(A群の生徒)</p> <table border="1" data-bbox="129 443 807 499"> <tr> <td>Topic</td> <td>America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small></td> <td>Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small></td> </tr> </table> <p>勉強する外国語: スパニッシュ Spanish</p> <p>★外国語を勉強する理由: 友達が話せるから(199)</p> <p>勉強する外国語: スペイン語</p> <p>★外国語を勉強する理由: 英語が得意だからスペイン語が楽だから</p> <p>植民地になったから、スペインの人が来たから、スペイン語を話さなければならないから</p>	Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>	<p>ワークシートの質問は、「(サンフランシスコの中学生が)勉強する外国語とその外国語を勉強する理由を書こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> A群の生徒は、推論発問への解答ができています。また、本文を基にした推論、配付資料を基にした推論及び背景知識を基にした推論を行っているのが分かります。思考の分類は、③解釈、④応用、⑤分析。RSは、読み直し、概要把握読み、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、他のテキストの知識、文化的知識等を活用したと考えられます。 B群の生徒は、推論発問への解答ができています。また、本文を基にした推論、配付資料を基にした推論を行っているのが分かります。思考の分類は、③解釈、④応用、⑤分析。RSは、読み直し、概要把握読み、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、他のテキストの知識、文化的知識等を活用したと考えられます。 C群の生徒は、推論発問への解答ができています。配付資料または、背景知識を基にした推論であり、本文を根拠としているわけではないことが分かります。思考の分類は、③解釈。RSは、他のテキストの知識、文化的知識等を活用したと考えられます。
Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>		
<p>(B群の生徒)</p> <table border="1" data-bbox="129 891 807 947"> <tr> <td>Topic</td> <td>America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small></td> <td>Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small></td> </tr> </table> <p>勉強する外国語: スペイン語</p> <p>★外国語を勉強する理由: サンフランシスコにヒスパニック系の人が多いから</p> <p>勉強する外国語: スペイン語</p> <p>★外国語を勉強する理由: 外国語で話せることがいいから</p> <p>勉強する外国語: スペイン語</p> <p>★外国語を勉強する理由: 周りのみんなが話しているから</p>	Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○推論発問への解答状況から、A群、B群の生徒は、研究の実際 I 図 2 による情報を超えた思考のレベルである③解釈、④応用、⑤分析を行っていることが分かります。C群の生徒は、③解釈を行っているものの、その根拠は本文が基になっているわけではありません。C群の生徒にとって、情報を超えた思考のレベルを本文を基にして求められると、困難さを感じるということが分かります。RSについても、本文に直接関わる要素が見えません。ただ、配付資料を活用していることから、教師の指示を聞いて何とか答えようとする姿勢が見られるといえます。したがって、関連性を見付けさせたり、比較させたりする発問(研究の実際 I 資料 1)を、本文に着目させて行う必要があります。発問以外については、発話の状況から、ペアやグループでの話し合いが効果的であることが考えられます。また、地図などの視覚情報が理解を促したと考えられますので、このレベルの認知処理を本文を基に行うためには、発問と組み合わせる手立てについて再考する必要があります。
Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>		
<p>(C群の生徒)</p> <table border="1" data-bbox="129 1339 807 1395"> <tr> <td>Topic</td> <td>America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small></td> <td>Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small></td> </tr> </table> <p>勉強する外国語: スペイン語</p> <p>★外国語を勉強する理由: 植民地になっていたから</p>	Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>	
Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>		

本文を基にした推論

配付資料を基にした推論

c 評価発問による見取り

評価発問（Which is your favorite, Japan or America?）を行い、読み取りをワークシートの記述で見取ります。思考の分類は、研究の実際 I 図 2 の Waters の思考の分類と、研究の実際 I 資料 1 の意見・考えを引き出す工夫を参照します。思考力の高まりは読解ストラテジー（研究の実際 I 資料 2）の活用で判断します。○は各段階を総括した考察です。下線部は思考の分類及びRSを示しています。ここでは、本研究の焦点を当てていないため、生徒の記述内容のみを示します。

ワークシートの記述（抽出生徒）	考察
<p>(A群の生徒)</p> <p>STEP 3 日本とアメリカの違いを知り、自分がどちらを好むかについて理由をつけて主張しよう。</p> <p>私は / 僕は (Japan / America) の方がお気に入りです。(好きです)</p> <p>Japan is my favorite. I live in Japan. We have lunch with my friends. <u>Our school lunch is nutritious.</u> It's good. It's healthy. I like school lunch. Thank you</p> <p><i>It's good and healthy.</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A群の生徒は、評価発問への解答ができています。思考の分類は、⑤分析、⑥総合・創造、⑦評価。このことから、評価発問に対応した思考のレベルに至っていることが分かります。RSは、内容・話題の知識を活用したり個人的体験と照合したりして、自分の考えを根拠を基に述べるできています。発問との組合せとして、Teacher Talk を基にした考えを書いています。Output には、本文のみならず音声による Input も取り込まれて表出されるのが分かります。 ・ B群の生徒も、評価発問への解答ができています。思考の分類、RSともに、A群の生徒と同レベルの認知処理を行っているのが分かります。発問との組合せにおいても、Teacher Talkを基にした考えを書いています。
<p>(B群の生徒)</p> <p>STEP 3 日本とアメリカの違いを知り、自分がどちらを好むかについて理由をつけて主張しよう。</p> <p>私は / 僕は (Japan / America) の方がお気に入りです。(好きです)</p> <p>Japan is my favorite. 日本が私の気に入っています。 I live in Japan. 私は日本に住んでいます。 Japan is a peaceful country. 日本は平和な国です。 <u>I like Japanese culture.</u> 私は日本の文化が好きです。 <u>We love Japanese food.</u> 私は日本食(和食)が大好きです。 <u>Japan is safe.</u> 日本は安全です。 <u>We clean our school.</u> 私は学校を掃除します。 So I like Japan very much.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ C群の生徒は、評価発問への解答ができていません。自分の考えとその理由に相当するものを書いてはいますが、本文との関連付けができていません。推論発問の段階のC群の生徒の解答状況との関連が見られません。
<p>(C群の生徒)</p> <p>STEP 3 日本とアメリカの違いを知り、自分がどちらを好むかについて理由をつけて主張しよう。</p> <p>私は / 僕は (Japan / America) の方がお気に入りです。(好きです)</p> <p>I like Japan I like Japanese comics <u>ONE PIECE is famous</u> so I love Japan</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ A群の生徒は、一つのテーマを掘り下げてまとまりのよい英文を書くことができています。これは、書くことの領域において伸ばしていくべきスキルとなります。B群の生徒の Output と A群の生徒の Output との違いは、B群の生徒は、文の羅列になっている点です。本研究が焦点を当てている考えを引き出すところまではできていますので、この後、書くことの領域において、まとまりのある英文を書くための手立てをとる必要があります。C群の生徒については、自分の考えとその理由を合わせて述べるということができています。ただし、本文との関連付けがないので、本文を読み取ったり、それを取り込んだりするための手立てを考える必要があります。

(オ) Outputにつながる手立てについて

今回の検証授業における評価発問（Which is your favorite, Japan or America?）に対する解答とその根拠について、A群、B群、C群の生徒が産出した英文を基に考察します。

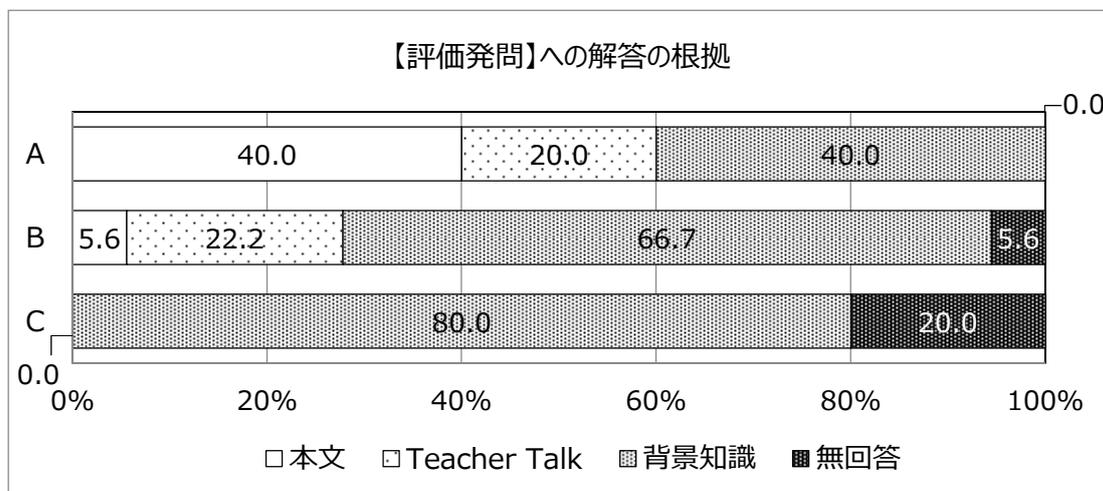


図1 評価発問への解答の根拠

図1から、A群の生徒の40.0%が本文を根拠として解答していることがわかります。背景知識を根拠として解答した生徒も同じ割合います。Teacher Talkの内容を根拠とした生徒は、20.0%となっています。このことから、A群の生徒は読み取った本文内容と個人的体験を照合して評価発問へ解答できていることがわかります。また、音声によるInputであるTeacher Talkも活用しています。B群の生徒は、A群の生徒と比較すると、本文内容を根拠とする割合が減り、背景知識の割合が増えているのがわかります。Teacher Talkの割合は、あまり差がありません。また、無解答が5.6%となっています。C群の生徒は、解答ができていても根拠は背景知識のみとなっています。また、無解答が20.0%となっています。以上のことから、外国語理解の能力が高い生徒ほど、評価発問に対して、読み取った内容、Teacher Talk及び個人的体験をバランスよく統合して解答するといえます。A群とB群の状況から、Teacher TalkがInputとして取り込まれ、Outputとして表出することがわかります。C群の生徒は、評価発問の段階の認知処理が困難であることがわかります。80.0%は何らかの解答をしていることから、視覚情報やペア、グループ活動などの学習形態の工夫が効果的に働いたのではないかと考えられます。またC群の抽出生徒のワークシートの解答状況から、英作文の型が与えられていれば、テーマに関連することで何とか書こうとすることがわかります。

(カ) 中学1年生英語アンケート結果より

検証授業前後でアンケートを実施しました。次のような結果となりました（図2）。「英語で書かれた文章を読むことは好きですか。」の問いに対する回答は、「好き」が15.2%増、「まあまあ好き」が12.0%増となり、「好き」「まあまあ好き」と回答した生徒の割合が62.9%となりました。

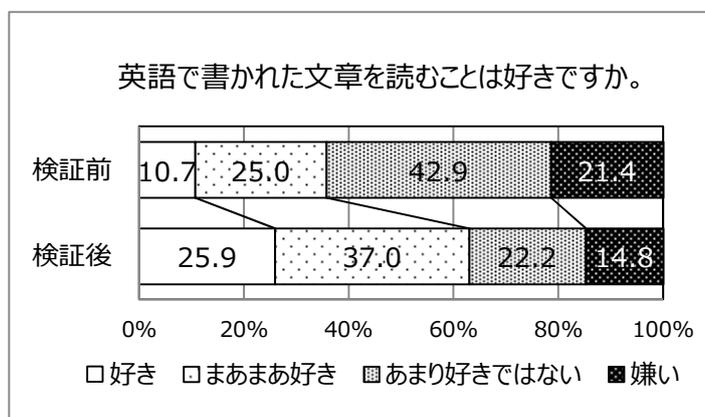


図2 読むことに対する意識

また、「英語の文章を読んで、意味が分からない単語や文があった場合はどうしますか」という問いに対する回答は、「推測する」が3.4%増、「何もしない」が4.3%減となりました（図3）。

以上のことから、読みのプロセスを踏まえた言語活動を通して、英語を読むことが好きな生徒が増えたことが分かります。また、分からない単語や文があったときには、すぐに辞書に頼るのではなく、まずは自分で考えようとする生徒が増えたことが分かります。加えて、何もしない生徒が減ったことが分かります。

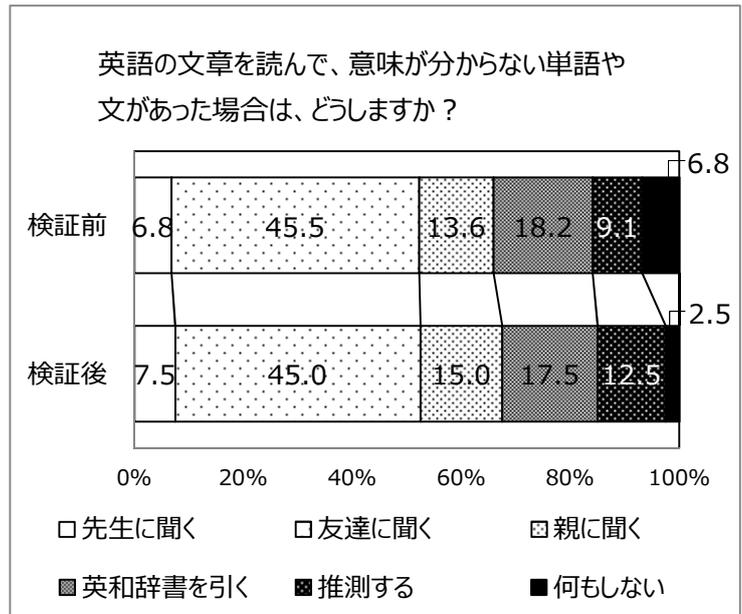


図3 読みのつまずきに対する対応